

カワサキ☆U18 レポート

Vol.2

川崎市では、市をもっと良くするために、子どもたちが中心になって話し合う「川崎市子ども会議」を開催しています。子ども会議では、1年間のテーマを決めて定例会議で話し合いを行っていますが、「カワサキ☆U18」と題して、いろいろな子どもとの話し合い、さらには大人との話し合いを通してまとめた意見を、市長に伝える活動も行っています。今年度のテーマは「私たちの『子どもの権利』をもっと大切に！」です。今回は11月のカワサキ☆U18の様子を中心にご紹介します。

8月～
11月

川崎市子ども会議 定例会議など「大人と話し合いたいことを考える」

7月のカワサキ☆U18で、さまざまな子どもたちから出た意見を基に、大人たちとどんなことについて話し合いたいか、どんな大人と話し合いたいかについて、考えました。また、川崎市役所で子どもの権利について担当している職員に市の取組について説明してもらい、理解を深めました。

また、カワサキ☆U18の話し合いの進め方等を考える「U18チーム」の発案で、11月のカワサキ☆U18では、グループに分かれて子どもと大人で一緒に企画案を作る「ミッション」を行いながら、テーマについて意見交換を進めることにしました。



意見交換・対話のテーマ	ミッションの内容
<A>学んだことを忘れないような、子どもの権利の学習について考えたいな	子どもの権利に関する授業や取組の企画づくり
子どもが安心して過ごせる場所や、つながりについて考えたいな	目を引く居場所や相談場所の広め方の企画づくり
<C>これからの子どもの権利に関する条例について考えたいな	条例の大人への広め方の企画づくり

11/16

カワサキ☆U18 「子どもの権利について子どもと大人で意見交換」

川崎市子ども会議子ども委員に加え、公募で集まった子どもたちと、地域で子どもの権利に関する取組や子どもたちを支える活動を行う大人たちで、話し合いを行いました。4つのグループに分かれて、それぞれのテーマについて、ミッションを行いながら、子どもも大人も一緒になってさまざまな意見を出し合いました。



<当日の主な意見>

1 グループ

意見交換・対話のテーマ	ミッションの内容
<A>学んだことを忘れないような、子どもの権利の学習について考えたいな	子どもの権利に関する授業や取組の企画づくり

■タイトル

■どんな子どもに

- ・【子ども】困っている子、困っているけれど相談するほどではない子
- ・【子ども】差別を受けている子
- ・【子ども】学校や家で自分の意見を言い出せない子
- ・【大人】外国にルーツのある子
- ・【大人】親に否定されがちな子(きょうだい間の比較など)

■課題

- ・【子ども】記憶に残らない、授業がつまらない
- ・【子ども】担任によって教える内容が変わってしまう
- ・【子ども】クイズなどで学ぼうとすると、答えがわかりやすすぎる(つまらない)

■ポイント

- ・【子ども】【大人】権利に触れる機会を多く作る(授業以外でやる、回数を増やす)
- ・【子ども】参加型の授業
- ・【子ども】学校の先生や大人に頼りすぎてしまうと、自分たちの行動が自主性に欠けてしまう
⇒大人任せにせず、自分たち子どもも考える
- ・【大人】大事な時に思い出せる(嫌なことを言われたりされた時に自分の心を守れるように)
- ・【大人】「権利」という言葉よりも、中身を大切にしていく

■具体的な内容・工夫

- ・【子ども】【大人】クイズ形式
- ・【子ども】【大人】有名人と7つの権利を考える
- ・【子ども】権利の俳句
- ・【子ども】活動ごとに当てはまる権利を考えていく(SDGsみたいに)
- ・【子ども】フィールドワーク(ドラゴンボールみたいに7つの権利集め)
- ・【子ども】7つのポーズを考える(ピクトグラムなど)
- ・【大人】体を動かしリズムで覚える
- ・【大人】ロールプレイ、劇づくり
- ・【大人】GIGA端末で権利のタイピングを行う

2 グループ

意見交換・対話のテーマ	ミッションの内容
子どもが安心して過ごせる場所や、つながりについて考えたいな	目を引く居場所や相談場所の広め方の企画づくり

■タイトル

■どんな子どもに

- ・【子ども】困っている子、相談したいけれどできない子
- ・【子ども】学校に通っていない子
- ・【子ども】困りごとを抱えながら学校に通っている子
- ・【大人】家で安心できない子

- ・【大人】経済的な理由で勉強や食事を受けられない子
- ・【大人】学校が苦手な子
- ・【大人】家にいたいと思わない子
- ・【大人】学校に行けないなど、周りとの接点が少ない子

■課題

- ・【子ども】相談したことを知られたくない、相談すると知られてしまう、心配されすぎてしまう
(学校だと友だちに、携帯だと親に)
- ・【子ども】活動に見合う効果が得られない
- ・【子ども】市民プラザなど(居場所・相談できる)場所がなくなってしまう
- ・【大人】忙しくて相談に行く時間がない
- ・【大人】自分が(その相談場所などに)行ってよいのかわからない

■ポイント

- ・【子ども】相談したことを知られないように
- ・【子ども】気軽に相談できるように
- ・【大人】相談できる場所を知ってもらえるように

■具体的な内容・工夫

- ・【子ども】広告を打つ 子ども(向け)番組で宣伝してもらう
- ・【子ども】どんなことでもいいよ、と大きく、子どもに絵を書いてもらう
- ・【子ども】周りに相談したと知られたくない人に
⇒電話専用スペース(相談以外にも使える)を作る
- ・【子ども】困っていることがある人に
⇒四コマまんがみたいなポスターを作る
- ・【子ども】精神的な悩みを抱えながら学校に通っている子に
⇒保健室に相談、スクールカウンセラーへの相談ができるということを広める
- ・【子ども】相談したいけどできない子に
⇒GIGA端末でチャイルドラインなどの公式サイトにつながるようにする
- ・【子ども】家にいたいと思わない子に
⇒スクールカウンセラーや先生などからフリースクールを紹介してもらう
- ・【子ども】道徳の教科書(川崎市版)を使って、夢パークのストーリーをのせる
- ・【大人】街中や子どもたちが集まる場所にカウンセラーを置く(まぎれさせる)
- ・【大人】「相談するのっていいよね」という雰囲気を学校や社会に作る

3 グループ

意見交換・対話のテーマ	ミッションの内容
<C>これからの子どもの権利に関する条例について考えたいな	条例の大人への広め方の企画づくり

■企画のタイトル

大人と子どもの権利の道の切り開き方(グループ全員から理解は得られていない)

■伝えたい大人

- 【子ども】子どもと関係がある人
 - ・【子ども】子どもにかかわっている人(仕事や子どもがいる人)
 - ・【子ども】保護者(一番身近だからこそ)
 - ・【大人】こどもに影響が多い大人(先生、習い事の講師など)
- 【子ども】子どもと関係がない人
 - ・【子ども】子どもがいない大人
 - ・【子ども】子どもに興味・関心がない大人
- 【子ども】有力(有名)な人物

■課題

«知る機会がない»

- ・【子ども】子どもが知っていても、大人に伝わらなければ、問題は解決しない
- ・【大人】大人に伝えるタイミングがない
- ・【大人】大人が「大人の権利」を考えていない
- ・【子ども】親から子へなど、伝わる機会が少ない
- ・【子ども】知っていても、役に立たないと思っている人がいる
- ・【大人】知りたい、と思っていない人に伝えるのは難しい
- ・【大人】関心をもって取り組んでもらうためにどうしたらいいか
- ・【大人】何から、どこから伝えればよいか、迷ってしまう

■ポイント

- ・【子ども】「知る」で終わらないこと
- ・【子ども】ちゃんと考える機会を作る
- ・【大人】知識だけでなく、体動や行動につながる伝え方が必要
- ・【子ども】権利について話せる機会、場所を作る
- ・【大人】大人同士での話し合いがあるとよい
- ・【大人】誰が伝えるとよりよく伝わるか

■具体的な内容・工夫

- ・【大人】大人の会議や研修の時など、短い時間で権利学習を紹介する
- ・【子ども】オンライン講習会を開く
- ・【大人】子ども自身の声で動画等を作成し、映像を流してもらう
- ・【子ども】ポスター、電車のミニテレビ、クイズ、ゲーム感覚でなど、イベントを増やす
- ・【大人】子どもが大人へ講習会を行う
- ・【子ども】子どもが利用するメディアで広める(有名人が出演)

4 グループ

意見交換・対話のテーマ	ミッションの内容
<C>これからの子どもの権利に関する条例について考えたいな	条例の大人への広め方の企画づくり

■タイトル

子どもの権利は心の安心(「安心」という言葉を入れる)

■伝えたい大人

- ・【子ども】【大人】子どもにかかわっている大人(学校の先生、保護者、習い事の講師など)
- ・【子ども】子どもにかかわっていない大人(学生、高齢者)
- ・【大人】子どもが困っているときに気づけない大人
- ・【大人】子どもがいない環境(家庭や会社など)にいる人

■課題

- ・【子ども】権利を知るメリットがない、と思っている人がいる
- ・【子ども】権利を知らない、知らなければ大切さや守られているかどうかもわからない
- ・【大人】子どもを自分の「もちもの」のように扱って、子どもの意見を大切にしようとしていない
- ・【大人】自分の考え方や思いを強く押しつけがちのイメージ(暴言、暴力、威圧)
- ・【大人】大人が条例を聞く機会がない
- ・【大人】苦しい立場の大人も多い(子どもをよくするでは響かない)

■ポイント

- ・【子ども】いつも見る場所、聞く場所に
- ・【子ども】覚えることではなく「実行する」ことが大切
- ・【大人】大人へ「子どもの権利」学習をどう行うか、大人向けの教材開発
- ・【大人】こどもから発信する

■具体的な内容・工夫

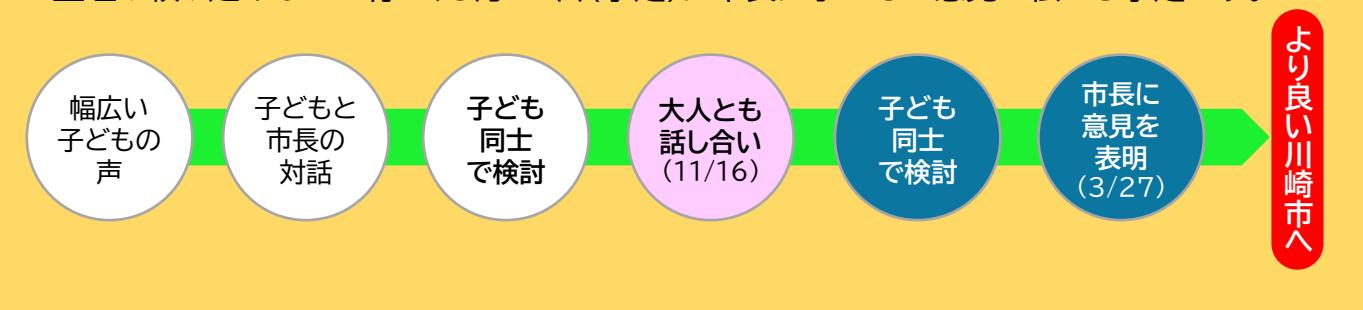
- ・【子ども】街中で広める(ポスター、パンフレット)
- ・【子ども】目を引く宣伝(ポスター・パンフレット、CM、キャラクター)
- ・【子ども】権利の体験会(具体的な場面で考えてもらう)
- ・【子ども】フィールドワーク(ドラゴンボールみたいに7つの権利集め)
- ・【子ども】7つのポーズを考える(ピクトグラムなど)
- ・【大人】研修会(PTA活動などで)
- ・【大人】配布物を統一する(QRコードに一元化して、学校や行政に)
- ・【大人】権利を知った、学んだことを証明する(リボンやバッジなど)
- ・【大人】子どもの権利カードゲーム(ポケカみたいに)



カワサキ☆U18に参加してくださった皆さん、ありがとうございました！

今後の予定

川崎市子ども会議の定例会議で、「私たちの『子どもの権利』をもっと大切に！」について、意見の整理や絞り込みなどを行い、3月27日(予定)に市長に子どもの意見を伝える予定です。



＜問合せ＞川崎市教育委員会事務局 生涯学習部 地域教育推進課
TEL 044-200-3565
メール 88chiiki@city.kawasaki.jp